



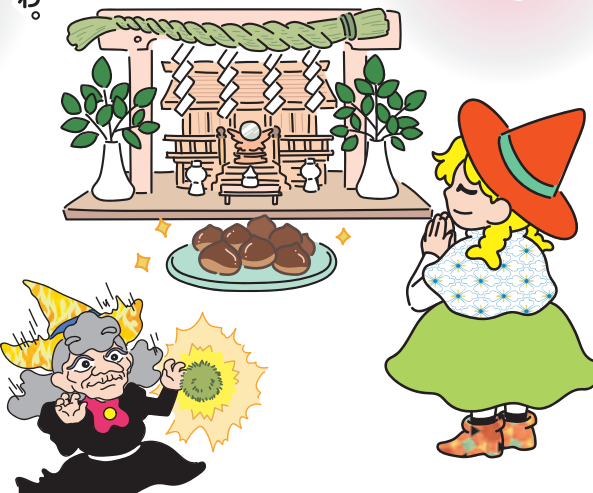
わたしはパリオウ、まじよまじよよ！
今年の秋、わたしはついに目覚めてしまったの。
そう、栗のおいしい季節に、ね！
というのね、この間、めずらしく「だき火」をしているところに出くわしたんだけど――そう、最近はいかんたんに街なかではできないみたいだね――そこでおじさんが焼いてくれたのが、栗だったのよ。それを食べたなら、まあなんといいことでしょう。わたしのイメージを根底からくつがえす、それはそれは香り高き、あまーいスイーツ！ちよっぴり大きさは言ったけど、それくらい感動的だったのよね。

それからというもの、3時のおやつに甘栗、食後のデザートに甘栗、って、すーっと栗さんまの生活になっちゃって。おおばーばからは、「食はずきはだめですわ！」って言われるけど、大丈夫。見ているだけでもにっこりしちゃうものだから、言うほどには量は食べていないから。でも、知っているかしら。この栗って、もともとはイガイガの中に入っているものなの。ウニのように、とげのからに包まれていて、おおばーばはさわさわと「電気」の走るような「ダメージ」を受けるそうよ。そんなことを言われたら、わたしのチャレンジ精神がピクピクしちゃっわ。

といつか、今回、わたしがあおばーばにおねがいをして、イタリアという国に連れてきてもらっちゃったのさ。ここ、イタリアも栗の産地として有名なところで、冬でもおいしく栗をいただけるそうよ。わたしは、栗の収穫祭でいがいぐりの収穫のお手伝いね！危険防止のために巨大な手袋と、収穫用の大きなかごを背負って、いざ、いがいぐり集めね！

集め終わったがいがいぐりは、その場でむかれて中の栗の実を焼くみたいなんだけど、収穫祭会場のおじさんは、「いがいぐり味で焼くのも、中までしっかりと火が通っておいしんだよ。ちよっと危ないけど、試してみるからいかに？」なんて言っているわ。ええ、やってみてもいいじゃないかー！

近くで見物って思ったんだけど、あおばーばにえりくびをかまされて、火から遠ざけられた。わたしはパリオウ、まじよまじよよ！



さっさく、ばーばと焼きたてのいがいぐりを開けてみましょう。そう、この甘〜香ばしいのを求めていたの！あー？ あなたも食べたの？ ミニパリオウちゃん、空っぽになったいがいぐりの中から、みだれを垂してこっすを見てへんわわわわ。(涙)

Q **もんだい** **おおばーばの問題**

いがいぐりの中には、ふつうは栗の実が3つ入っているのですが、中には2つしか入っていないいがいぐりもあるそうです。最初、栗の実が3つ入ったいがいぐり、2つ入ったいがいぐりがあわせて50個あり、これらをいがいぐりそのまま火で焼いたのですが、栗の実が2つ入ったいがいぐりの半数が爆発して、中の栗の実がどこかに飛んで行ってしまったので、焼きあがった栗の実は全部で122個になってしまいました。では問題です。爆発したいがいぐりは、全部でいくつでしょう(栗の実の個数ではなく、いがいぐりの個数で教えてください)。

A **もんだい** **かいとう** **問題の解答**

いろいろな考え方ができますが、「面積図」を使うのが明快です。下の図で、たての長さを「いがいぐり1個あたりの中身の個数」、横の長さを「いがいぐりの個数」とみましょう。すると、斜線をつけた部分の面積は、残った栗の実の個数から122(cm²)で、あ、い、の長方形の面積は同じ。また、全体の長方形の面積は3×50=150(cm²)なので、あ、い、の長方形の面積は(150-122)÷2=14(cm²)とわかります。あ、い、のたての長さは1(cm)なので、横の長さは14(cm)しかたがって、爆発する前に栗の実が2つ入ったいがいぐりがあわせて14個あったとわかるので、爆発したいがいぐりは、その半分の7個とわかります。

「本当に危ないから、少しはなれて見るようにしまじょう」 たしかに、ばーばの言うとおり、いがいぐりのまんなまの栗は、ときどき火の力のせいで「爆発」してしまつたのです。おじさん、ちよっぴり完全防衛しているけど、あれはそういうことだったわけね。爆発せずに残った栗が、すんごくおいしい栗になるみたいなんだけど……

あー？ ばーばがうつとりしてきたわね。まあ計算タイムに突入かしら？

みんなも、ばーばの問題を楽しんでみて！

じんぶつしょうかい **人物紹介**

未熟な魔女「まじよまじよ」を卒業するために日々奮闘中の、どこかおっちょこちょいな魔女。最近、すこすついろいろな魔法が使えるように。目の前のものをかわい〜いへびに変えるのが特技。

手厳しさもあればおおらかでやさしいところもある、なぜかパリオウちゃんと気の合う「偉い魔女」。保護者役も兼ねる。

パリオウちゃん
おおばーば (本名はセツコ)

